

編集後記

「学苑」は2021年度から季刊発行となるため、今回が「人間社会学部紀要」としての最終号となる。教育活動や校務が忙しい日々において、研究者であり続けることは容易なことではない。そうした中で「人間社会学部」の号があったことは、年に1回、研究をまとめるという目標となってきたと思われる。今回も4学科から投稿されており、常勤教員のみでなく非常勤講師の先生方、年配の先生方から若手の先生方、と多様な著者の論文・研究ノート・資料が掲載されていることは嬉しいことだと考える。2021年度以降も、各自の研究進行に合わせて、「学苑」に投稿していただければと思う。最後に、お忙しい中、丁寧な査読をしてくださった先生方に感謝申し上げます。（人間社会学部長 藤崎春代）

心理学科からは、今号へ資料1本の投稿があり、厳正な査読を経て掲載の運びとなった。執筆者、査読者の先生方に御礼申し上げます。掲載の資料は、企業との共同研究の萌芽的研究として、今後の心理学の研究のいっそう幅広い領域への開拓と展開が期待されるものである。人間社会学部紀要としては今号が最終号となり、「学苑」の人間社会学部紀要としての役割を終えることになる。来年度から季刊となる「学苑」への心理学科からの投稿もさらに促進していきたい。（島谷）

現代教養学科からは、論文2本、研究ノート2本が掲載となった。学際的な学科の特色が生かされ、中西先生はコナン・ドイルの宗教観をホームズ物語に登場する音楽で読み解いた論考、フフバートル先生はモンゴル文語とモンゴル語の言文一致の問題に関する論考、瀬沼先生・粕谷先生の共同研究では京都の中山間地域の持続的地域形成と振興に関わる文化・社会的企業活動に着目された考察、福田は世田谷でのプロジェクト活動の実践例についての考察、まさに文化研究の多様性を開示できたと思う。最後になったが、ご多忙のところ査読をお引き受けくださった先生方には心から感謝申し上げます。（福田）

福祉社会学部からは、厳正な査読を経て研究ノート1本が掲載の運びとなった。今日、福祉のニーズは多様化・複雑化し、制度の制定や改変が続くとともに、現場での実践も日々進化している。そうした中でも、制度のはざまの問題や専門職が十分に対応できていない問題もある。今回の研究ノートは、そうした問題への当事者の視点からの研究で、非常に貴重なものである。今後も様々な研究成果を「学苑」を通して発信していければと思う。最後に、査読を引き受けて下さった先生方に感謝申し上げます。（北本）

初等教育学部からは、今号へは3本の投稿が寄せられた。高等学校地理歴史科「世界史B」と大学「教育原理」系科目の双方の教科書の歴史人物の記述を比較・考察した論文、『趣味大観』（1935）にみられる自然栽培趣味の記述から、昭和初期の盆栽趣味の諸相について考察した論文、コロナ禍における小学校教員の特別活動指導の意識変化をインタビュー調査から明らかにした論文であり、厳正な審査を経ての掲載となった。ご協力いただいた各氏に感謝申し上げます。今後も教育・保育について多面的な角度から捉えた研究が行われ、その成果発表の場として、「学苑」への積極的な投稿を期待したい。（今井）

編集委員 島谷まき子・福田淳子・北本佳子・今井美樹

☆掲載論文の無断転載を禁じます。

学苑	九百六十四号		印刷所	三秀舎		編集発行人	島谷知子		令和三年二月一日発行	令和三年一月二十日印刷	購読料	一カ年分 一〇五六〇円		定価	八八〇円（本体八〇〇円）	
	（本体 九六〇〇円）															
発行所 昭和女子大学																
近代文化研究所																
〒154-8533 東京都世田谷区太子堂																
一ノ七ノ五七																
電話 03（三四一一）五三〇〇																